

オオシラビソ稚樹の移植作業を行いました (「樹氷復活県民会議WT(第3回)」併催)

令和5年7月11日(火)に、山形市の蔵王国国有林でオオシラビソ稚樹の移植作業を行いました。

樹氷を形づくるオオシラビソの再生については、これまで、山形県森林研究研修センターのご協力もいただきながら、稚樹の移植などに取り組んできましたが、その規模は被害面積などに比べればわずかなものであり、今般、樹氷復活県民会議も設立される中、取組の加速化が求められているところです。

これまで手探りではありつつも、取組を通じて得てきた知見から、稚樹の移植もオオシラビソ林を再生する一つの手法としての手応えを得てきており、こういった知見・経験を多くの方に共有していただきながら、県民・市民の方々による再生活動が積極的に展開されていくような環境を整えていくことが大変重要だろうと考えています。

県民活動の展開のあり方はこれから、樹氷復活県民会議ワーキングチームでも大いに検討されていくものと思いますが、まずは、ワーキングチームの構成員の皆様は、是非、オオシラビソ林再生のための一連の作業を経験いただきたい、ということで、当署が令和元年から毎年行っているオオシラビソの稚樹移植について、今回は「現地技術講習会」としつつ「樹氷復活県民会議ワーキングチーム(第3回)」を兼ねて行う形で行い、およそ30人の参加がありました。

当日は、樹氷高原駅から徒歩でゲレンデ脇の稚樹が自生する場所に移動し、稚樹を探索しました。参加者は5つのグループに分かれ、それぞれ2本程度の稚樹を探索しました。移植に手頃な稚樹が見つかったら、スコップで掘り取りました。スコップが地中に入りにくい場所もあり、苦闘する姿も見られました。掘り取った稚樹は、土のう袋に収納し地蔵山頂駅横の移植箇所へ運搬しました。山頂は強い風が吹き、また、深い霧に覆われていましたが、運んできた稚樹の根鉢の大きさを目安に植えるための穴を掘り、14本の稚樹を移植しました。

オオシラビソ再生のための取組に参加したよ、という方がどんどん増え、これからのオオシラビソ林再生のための様々な活動を先導していただき、樹氷再生への取組のすそ野がさらに広がっていくことを願って、また、本日の行事に参加していただいた感謝の気持ちも込め、終了後に「稚樹移植」に関わる作業を経験、体得されたということを書いた「修了証」をお渡ししました。引き続き、樹氷復活県民会議と連携して、地域の宝である樹氷を形づくるオオシラビソ林の再生に取り組んでまいります。

